

日本小児がん看護研究会
Japanese Society of
Pediatric Oncology Nursing
— JSPON
News Letter

2003年10月

第1号

日本小児がん看護研究会発足

去る平成15年2月8日、東邦大学医学部看護学科にて、日本小児がん看護研究会準備会が開かれました。発足のきっかけは、梶山先生をはじめ、昨年のSIOP（国際小児がん学会）に参加した看護職者を中心に、国内でも小児がん看護に焦点をしぼった会の必要性を感じたことがあります。

今回のニュースレターでは、日本小児がん看護研究会の趣旨、準備会・役員会の様子、第1回小児がん看護研究会のお知らせをさせていただきます。

日本小児がん看護研究会の趣旨

日本小児がん看護研究会は、国際小児がん学会に参加し、わが国にも小児がん看護の情報交換を行う場が必要であることを切実に感じたナース達の声を契機に、臨床・地域・教育研究に携わる看護職がともに集える場として立ち上げたいと考え、2003年2月8日に会を発足しました。現在、近畿地域で小児がん看護実践や研究に意欲的に取り組んでいるナースの方々と共に全国的なネットワークの構築を求め、歩み始めたばかりです。

私たちは、小児がん看護の実践に取り組んでいるナースの方々や、優れた研究を報告している看護研究者、また他職種の方々の成果を結集して情報交換を行い、子どもや家族とも協同してゆくことで、子どもと家族のQOLの向上がはかれると考えています。よりよいケアの提供とともに看護ケアの検証も求められており、研究会を情報交換やケアの検証の場としてゆきたいと念願しております。

第1回研究会は、2004年2月に、丸光恵先生のもと、北里大学を会場に開く予定です。小児がん看護の実践、研究、教育に携わっている方、また子どもと家族の支援に関心をお持ちの方々のご参加と入会をお待ちしております。

2003年5月17日

日本小児がん看護研究会会長
梶山 祥子

研究会発足準備会と役員会

平成15年2月8日に行われた準備会には、18名の方々が集まりました。臨床の場からは、国立がんセンター、千葉県こども病院、横浜市立医学部附属病院、北里大学医学部附属病院から病棟看護師、外来看護師、CNSの参加があり、子どものケアをより良くするための取り組みや外来におけるコンサルテーションの実際などについての話が出ました。教育・研究の場からは、外来通院している思春期の子どもへの支援や検査・処置に関する説明、QOLを高めるための関わり、晚期障害、死別ケアなど、それぞれの方々が行ってきた研究についてや、大学が核となって県内の看護師と共に小児がん看護の勉強会を行っているなどの報告がありました。さらに、梶山先生が東邦大学医学部附属病院の血液腫瘍科病棟で立ち上げられた親の会「ひだまりの会」の報告、内田先生が施設を越えたつながりを求めて作られた「42病棟の骨髄移植小児看護リストによる造血細胞移植看護ネットワーク」の紹介がされました。しかし、現状として、情報交換を行うことの難しさについての問題点も出されました。

そして、本会の目的は「小児がんの子どもと家族を支援する看護実践と教育の向上と発展に資すること」とし、小児がんの子どもや家族の問題を広く捉え、将来的には看護職者だけの会にとどまらず、広い分野・視野で活動したい、との意向が参加者の中で確認されました。また、会の運営や役員についても話し合われました。

第1回役員会が、平成15年5月17日に千葉大学看護学部で、第2回が平成15年9月20日に北里大学看護学部で開催されました。名簿管理、広報、ニュースレター、近畿小児がん研究会の方々との連携のとり方などの今後の活動について、予算も含めた運営方法の話し合いが行われました。特に来年2月に開催する第1回研究会に関しては、活発に具体的な話し合いが行われました。



準備会終了後に（東邦大学医学部看護学科・ナイチンゲール像の前にて）



日本小児がん看護研究会会則

第1章 総則

第1条 本会は、日本小児がん看護研究会
(Japanese Society of Pediatric Oncology Nursing - JSPON)と称する。

第2条 本会に事務局を置く。

第2章 目的および事業

第3条 本会は小児がんの子どもと家族を支援する看護実践と教育の向上と発展に資することを目的とする。

第4条 本会はその目的を達するため、次の事業を行う。

- 1 研究会の開催
- 2 機関誌の発行
- 3 小児がん看護の実践、教育、研究に関する情報交換
- 4 各地の親の会との交流
- 5 その他本会の目的達成に必要な活動

第3章 会員

第5条 本会の会員は次のとおりとする。

- 1 一般会員
- 2 賛助会員

第6条 会員は小児がん看護の実践、教育、研究または小児がんの子どもと家族への支援に携わっており、本会の主旨に賛同するものとする。

2 会員は研究会への発表、機関誌への投稿とその配布を受けることができる。

第7条 賛助会員は本会の目的に賛同し、本会の目的達成に協力するために入会を希望して役員会の承認を得るものとする。

2 賛助会員は機関誌等の配布を受け取ることができる。

第4章 会費

第8条 本会の会費を以下のとおりとする。

- 一 一般会員 年額5000円
- 二 賛助会員 年額1口10000円

第5章 役員

第9条 本会に次の役員をおく。

- | | |
|-----|-----|
| 会長 | 1名 |
| 副会長 | 2名 |
| 幹事 | 若干名 |
| 監事 | 3名 |

2 幹事の中で庶務担当者、会計担当者、研究会担当者、機関誌担当者、広報担当者をきめる。
3 役員の任期は3年とし、再任を妨げない。

第6章 会議

第10条 本会に次の会議をおく。

- 一 役員会
- 二 総会

2 役員会は年3回開催し、活動計画、予算案を作成し計画に基づいて会の運営を行う。
3 総会は年1回開催し、役員会は総会において実施した活動内容および活動計画、決算および予算案を報告する。

第7章 会計

第11条 本会の会計は下記による。

- 一 会費
- 二 本会事業に伴う収入

第8章 会則の変更

第12条 本会の会則を変更する場合は、役員会の議を経て総会に報告する。

第9章 雜則

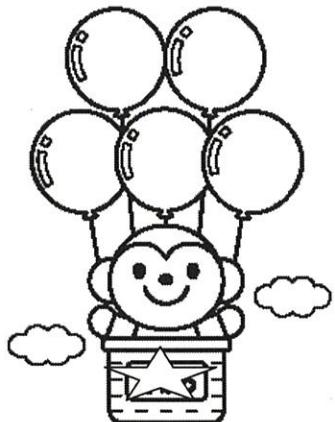
第13条 この会則に定めるものの他、本会の運営に必要な事項は別に定める。

第10章

第14条 この会則は2003年2月8日から施行する。

第15条 本会発足時の事務強および役員を以下のとおりとする。

一 事務局	長野県看護大学
二 役員	
会長	梶山祥子
副会長	丸光恵・門倉美智子
幹事 庶務	内田雅代
会計	平出礼子・上坪成子
研究会	松岡真里・小原美江
機関誌	小川純子・伊庭久江
広報	石井真・橋野雅美
監事	石川福江・森美智子・ 石橋朝紀子



近畿小児がん研究会看護部門の紹介

神戸大学医学部附属病院 門倉美知子

近畿小児がん研究会は、医師の研究会として20年近くある研究会です。その近畿小児がん研

究会は毎年3月に研究会を開催しています。そこで、4年前から患者・家族、医師と看護師が参加して一緒に、症例発表（演題）や体験談、シンポジウムなどを行う会として行い始めたのがきっかけです。

近畿小児がん研究会のなかに、近畿圏内の看護の情報を交換できるように近畿小児がん研究会看護部門が設立されました。看護師たちが、患者さまのQOLを向上させるために、病院の情報交換、学会発表、近畿小児がん看護セミナーの企画・運営、3月の近畿小児がん研究会のシンポジウムや事例報告、小児がん看護書籍の執筆など行ってきています。また、がんの子どもを守る会関西支部の方に協力して頂いたり、講演会・相談会に参加させて頂いたりしています。看護部門の定例会は、2ヶ月に1回、大阪に集合して活動をしています。現在は、大阪駅近くの毎日新聞社大阪本社の会議室をお借りして定例会やセミナーを開催しています。

現在のメンバーは、病院の臨床実践をしている看護師がほとんどで、大学の小児看護学専攻の数名の先生が入っています。しかし、ほとんどのメンバーは病棟勤務、夜勤をしていますので、連絡がとりきれない現状もあり、なかなか人数が拡大せず、維持していかせん。また、小児がんの子どもに携わる看護師の部署交代などの苦しい現状もあります。そんな背景もあり、近畿圏内（大阪、兵庫、京都、滋賀、奈良、和歌山）の小児がんに携わる看護師のネットワークづくりを今後はなんとか推し進めていきたいと思っています。情報交換をしながら、近畿圏内の病院が同じ基準で看護を行えるような「基準作り」ができたらすばらしいなあとも考えています。（これはとても大きな目標ですが。）

そのためにも、日本小児がん看護研究会と連携して、臨床と研究をしている人たちの交流を通じて、小児がん看護の情報交換の場、発展できる活動にしていきたいと願っています。そして、全国に向け看護のネットワークをつくり、患者・家族、看護師、医師、教師、PSWなどの多くの職種の方たちとネットワークの輪を広げていけたら素晴らしいと思います。今後も頑張って活動していきたいと思っていますので、ご指導・ご協力をどうぞよろしくお願ひ致します。





第1回小児がん看護研究会のお知らせ

テーマ「小児がんの子どもの権利と意思決定」

第1回研究会幹事：丸 光恵（北里大学看護学部）

日時：平成16年2月14日（土）

場所：北里大学L3号館 409教室

小田急線相模大野駅より北里大学行きバス 20~30分

JR新宿駅より約1時間

JR新横浜駅より約1時間

プログラム：

13:00~17:00

会長挨拶

教育講演 片田範子先生

(兵庫県立看護大学)

パネルディスカッション

パネリスト

- ・渡辺輝子氏（国立がんセンター看護師）
- ・藤井裕治氏（浜松医科大学小児科医師）
- ・臼井薰氏（家族：星の会）
- ・当事者（予定）

17:30~18:30

懇親会

参加費：会員 3000円

非会員 4000円

申込方法：

参加希望の方は、以下の郵便振替口座に

参加費をお振り込み下さい。

口座番号：00210-5-76479

口座名称：

日本小児がん看護研究会第1回研究会

第1回研究会幹事よりひとこと

北里大学看護学部 丸光恵

第1回の研究会は「小児がんの子どもの権利と意思決定」と題し、北里大学で開催することとなりました。

苦痛や制限が大きく、かつ長期にわたる療養生活が必要な小児がん。日常生活の細々としたことから骨髄移植など先端治療の選択まで、意思決定を必要とする事は、多岐にわたります。子どもや家族を前にして、看護師自身も自信をなくしたり、悩むことが多いのではないでしょうか。またそのような時は、子どもの権利が損なわれ、その意思を尊重できないでいる時ではないでしょうか。

日々のケアの中で、私たちがひとつひとつ丁寧な看護を行うことによって子どもの権利が守られ、そしてその積み重ねが小児がんに立ち向かう子どもと家族のエネルギーにつながると思います。患者の人権や子どもの権利に対する意識の高まりの中、子どもたちの真のニーズに応えられるようなケアを充実させたい。そんな思いの中からテーマを決めました。

教育講演には、片田範子先生をお迎えすることができました。パネラーには当事者、家族の方のご参加もいただき、それぞれのお立場からご発言いただきます。北里大学病院看護部をはじめ、多くの方々のご協力をいただきながら準備をすすめています。皆さまのご参加をお待ちしております。



* 第45回日本小児血液学会

2003年10月17日~18日

会長：小泉晶一（金沢大学）

会場：石川県金沢市・県立音楽堂

* 第19回日本小児がん学会

2003年11月27~29日

会長：横山清七（東海大学）

会場：東京都・新霞ヶ関ビルほか

* 第26回日本造血細胞移植学会

2003年12月19~20日

会長：加藤俊一（東海大学）

会場：神奈川県横浜市・パシフィコ横浜



☆日本小児がん看護研究会のホームページを開設しました

<http://jspn.hp.infoseek.co.jp/index.htm>

小児がん看護研究会機関誌編集係

〒260-0843 千葉市中央区亥鼻1-8-1

千葉大学看護学部 小児看護学教育研究分野

小川純子・伊庭久江

E-mail: junogawa@faculty.chiba-u.jp